

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	イラストレーション実習2	
科目基礎情報					
開設学科	グラフィックデザイン科	コース名		開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	60時間
単位数	2単位	授業形態	実習		
教科書/教材	参考作品・参考資料等は、授業中に配布、掲示する。				
担当教員情報					
担当教員	飯島 章嘉		実務経験の有無・職種	有・イラストレーター	
学習目的					
イラストレーションの中でも2DCGのデジタル描画が中心となっているコンセプトアート、ゲームビジュアル、アニメーションの美術設定の世界では、ソフトウェアを柔軟に使いこなし、なおかつ画力に優れた作品が描ける人材が以前にも増して求められている。それを踏まえてPCによる描画、データ作成および管理能力を身に着けることがこの授業の目的である。また、イラストレーションも絵画のジャンルであることを認識し、表現力の高い描写ができる人材の育成が必要であり、そのためにも感性と論理に裏打ちされた発想力、表現力の充実をはかる事が後期授業でのねらいである。					
到達目標					
コンセプトアート、ゲームビジュアル、アニメーションの美術設定など2DCGデジタルイラスト制作のためのスキルを身に着ける事を目標とする。 ①ソフトウェアリテラシーを習得することで柔軟に自らの構想に沿った描画ができること。 ②制作したデータをクライアントとのやり取りにおいて適切に管理できること。 ③クライアントの言葉をビジュアル化する表現力を持つこと。 ④説得力のある画力を得ること。これらが是非学生たちに到達してもらいたい目標である。					
教育方法等					
授業概要	授業はPC、ペンタブレットなどを用い、描画ソフトで課題を制作する。課題はまず模写を行い、実際のコンセプトアートなどのワークフローを学ぶ。言葉による設定書を視覚化し、鉛筆画からいかにデジタル2DCGにするかを知り、実践する。次に設定書から自分自身の表現をいかにデジタルの世界で実現するかを学び、3つ目の課題で、自分自身の内的欲求を見つめ、説得力のあるビジュアル化を行う過程を学ぶ。				
注意点	模写の段階では、多分にマニュアル的要素が含まれるため、教材の分析だけでなく実際にノートを取るなど、知識収集のための努力を図りたい。また、後半は自由度の増す課題であるだけに資料の収集、分析といった制作前段階での準備を怠らぬよう注意したい。自己の発想を豊かにするために、常に多くの様々な創作物に当たることも重要である。なお授業時数の4分の3以上出席しない者は課題提出とプレゼンテーションの実施ならびに評価を受けることができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	課題完成度	40%	課題を総合的に評価する		
	リサーチ	30%	制作準備と過程を評価する		
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	ガイダンス、課題スケジュール		課題内容を理解し情報整理をして自らのスケジュール管理ができる		
2回	コンセプトアート 模写①		模写する対象物を分析することができる。自分に必要なスキルを分析することができる		
3回	コンセプトアート 模写②		フォトバッシュ、素材の使い方を学び実践することができる		
4回	コンセプトアート 模写③		全体の構成を見て、色調の調節、テクスチャの使い方を学び実践できる		
5回	コンセプトアート 模写④講評		自分の能力の特性や長所を知り、補うべき短所を知ることができる		
6回	指定に沿って描く「水族館、動物園」①		依頼内容を理解し、リサーチを行い情報を整理できる		
7回	指定に沿って描く「水族館、動物園」②		得られた資料を基に、発想し形状化してゆくことができる		
8回	指定に沿って描く「水族館、動物園」③		PC上で着彩し発想を視覚的に具現化できる		
9回	指定に沿って描く「水族館、動物園」④		より優れた作品にするため、構成、配色などを検証することができる		
10回	指定に沿って描く「水族館、動物園」⑤		自分の能力の特性や長所を知り、補うべき短所を知ることができる		
11回	自分自身の表現「行ってみたい場所」①		課題内容を理解し、自分自身の表現を具体的に考えることができる		
12回	自分自身の表現「行ってみたい場所」②		アイデアから線画を起こし、形を考察し、色彩を設計することができる		
13回	自分自身の表現「行ってみたい場所」③		線画に着彩しながら、使うべき素材、技術を考え施すことができる		
14回	自分自身の表現「行ってみたい場所」④		イメージの適切な伝達がなされているか検証することができる		
15回	自分自身の表現「行ってみたい場所」⑤講評		自分の能力の特性や長所を知り、補うべき短所を知ることができる		